

令和6・7年度 大島地区指定研究協力校「指導方法改善」

研究紀要

研究主題

学びに向かう姿勢を絶やさない亀津っ子の育成
-子供を中心に据えた授業デザインを目指して-



令和8年1月29日(木)

徳之島町立亀津小学校

I 研究主題

学びに向かう姿勢を絶やさない亀津っ子の育成
-子供を中心に据えた授業デザインを目指して-

II 研究の構想

1 主題設定の理由

今日的な教育の動向から

【Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ(2022年6月2日 内閣府発表)より】

1 社会構造の変化

これまでの「工業化」という明確な目標ではなく、**正解がない「新しい価値創造、イノベーション」の社会**への変化。



図1 社会構造の変化(イメージ)

2 教室の中にある多様性

小3から中学数学を理解できる児童。LD等、発達障害のある児童。学力の低い傾向が見られる児童。1つの教室ですべての児童に対応するには**紙ベースの授業では限界がきている**。

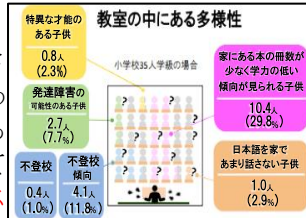


図2 教室の中にある多様性(イメージ)

※ 図1・2「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」より転載

3 価値観や評価軸の見直し

皆同じことを一斉に行い、皆と同じことができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことも必要。

県の動向から

【令和6年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析】(令和6年11月)より】

個別最適な学びと正答率について

自分に合った学習ができていく実感と主体性の高まりには関係が認められることから、**学習内容や方法等を児童生徒が自己選択・自己決定するなど個別最適に学びを進める場面と、協働して学びを広げ深める場面とのバランスを考慮した単元デザイン**、授業実践の工夫が大切であり、**今後一層「学習者主体の授業」づくりを進めていく必要がある**。

【小学校 国語】

「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

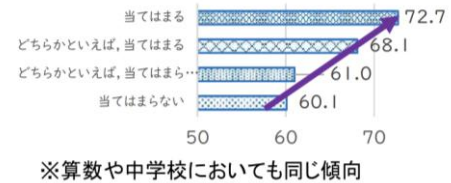


図3 個別最適な学びと正答率の相関図

学びに向かう姿勢を絶やさない亀津っ子の育成
-子供を中心に据えた授業デザインを目指して-

学校の教育目標から

【夢や希望と進取の心を持ち、心豊かでたくましく、自ら学ぶ亀津っ子の育成】

1 重点目標

- 夢や希望をもたせるとともに自己肯定感・有用感を育み、自信をもって主体的に行動できる。
- 基礎・基本の確実な定着を図り、**学びに向かう力・人間性を育てる**。
- 様々なことに**積極的に挑戦**させ、心身共にたくましく育てる。

2 努力点と具体的方策

- 主体的・対話的で深い学び**に向けた授業改善
- 学習者主体**の学習の視点に立った授業づくり

子供の実態から

【令和6・7年度全国学力・学習状況調査の結果より】

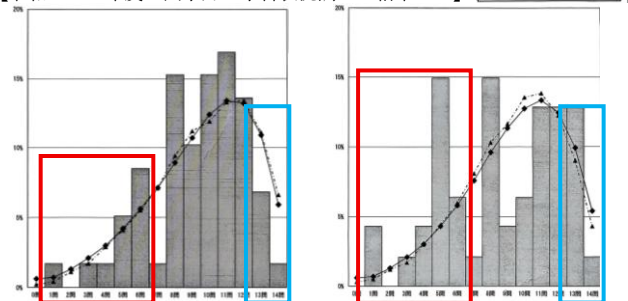


表1 令和6年度全国学力・学習状況調査 国語における正答率分布グラフ 表2 令和7年度全国学力・学習状況調査 国語における正答率分布グラフ

- 赤枠内のグラフより、正答率が50%を下回る子供の数が、県や全国の平均より多い。
- 青枠内のグラフより、正答数の多い子供の数は、県や全国の平均より少ない傾向にある。
- 学習を苦手とする子供を支援しつつも学力の高い子供も伸ばす必要がある。

2 研究主題の基本的な考え方

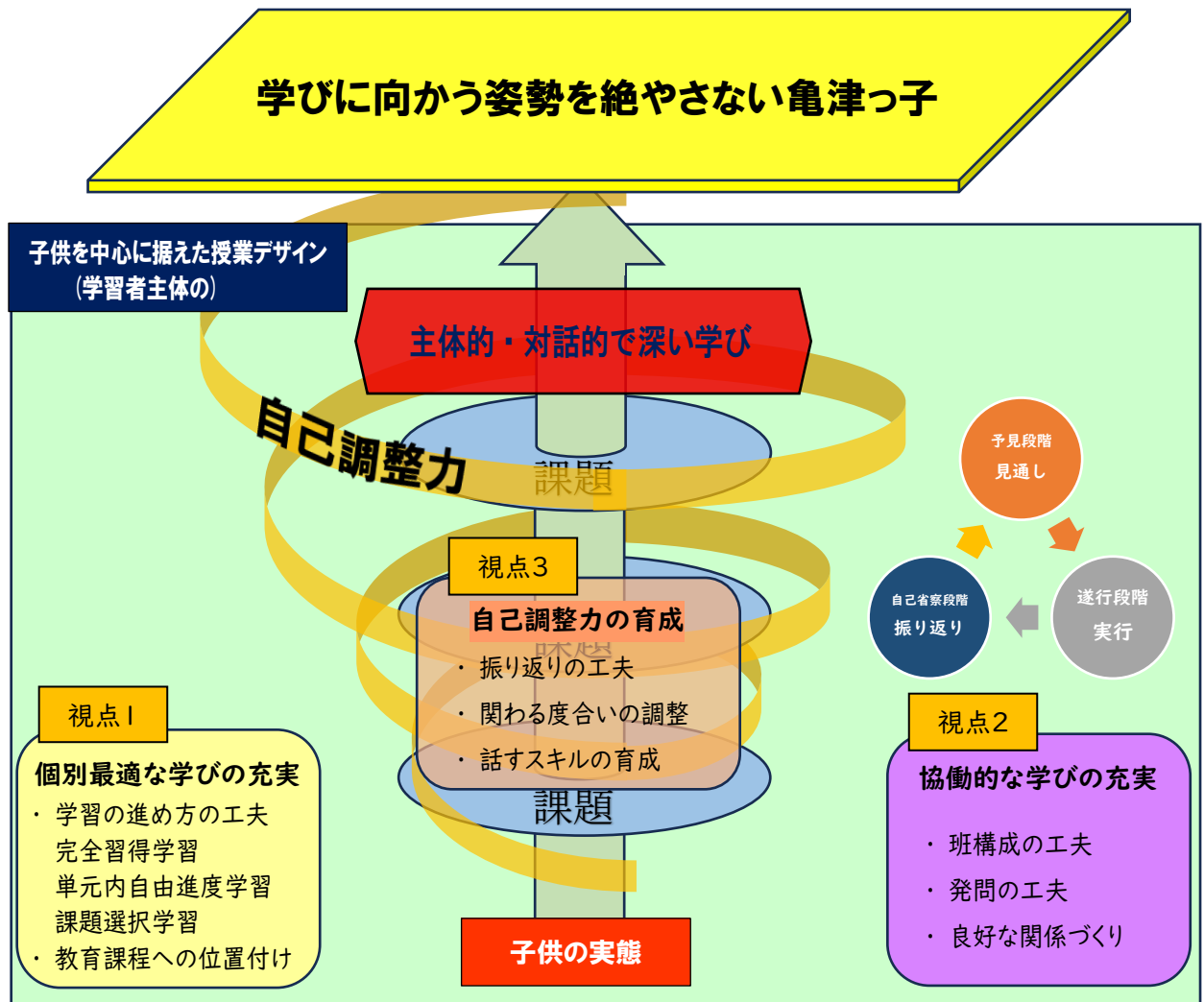


図4 学びに向かう姿勢を絶やさない教育のデザイン (イメージ)

3 研究の内容

子供を中心に据えた授業デザインの視点 実践事項	視点1 「個別最適な学びの充実」	視点2 「協働的な学びの充実」	視点3 「学びを発展的に向上させるための自己調整力の育成」
授業内共通実践事項	個別最適な学びを実現するための学習の進め方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 完全習得学習 ・ 単元内自由進度学習 ・ 課題選択学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働的な学びを促進する意図的な班構成 ・ 学びの必然性を実感させる発問の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業の振り返り」を通じた自己調整力の育成 ・ 発達段階に応じた教師の関わる度合いの調整 ・ 話すスキルの育成
授業外共通実践事項	学習の進め方の教育課程への位置付け	PA(プロジェクトアドベンチャー)の取組による良好な関係づくり	

Ⅲ 研究の視点及び実際

視点1 「個別最適な学び」の充実

(1) 個別最適な学びを実現するための学習の進め方の工夫

学級内に様々な特性や学力をもった子供が混在する中、個別最適な学びを実現するためには授業の中で「指導の個別化」「学習の個性化」の2点に取り組むことが重要となる。本校では、「指導の個別化」「学習の個性化」を次のように捉えた。

- 指導の個別化とは、子供の学習スピード差や、習熟度に対応すること
- 学習の個性化とは、子供の興味関心や、学習スタイルに対応すること

上記の2点を授業の中でより具体化するために、「個別最適な学びを実現するための学習の進め方の工夫(図5)」を策定した。4種類の中でも、本校では「1, 3, 4」の3つを単元構想を基に計画的に取り組んだ。

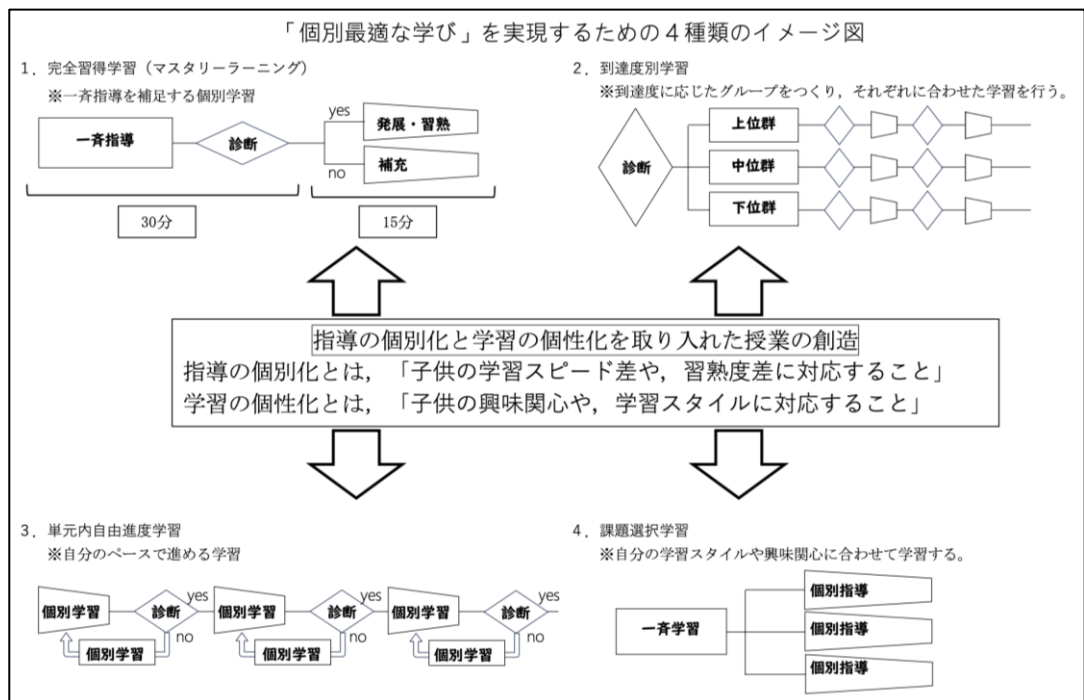


図5 個別最適な学びを実現するための4種類のイメージ図

(2) 完全習得学習(マスタリーラーニング)

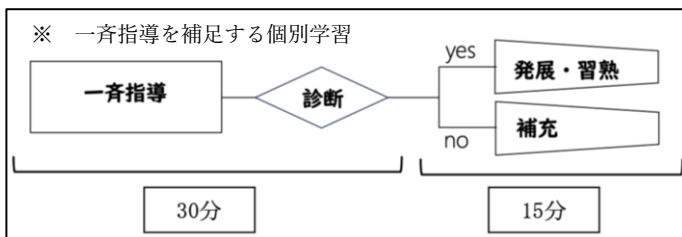


図6 完全習得学習の流れ(イメージ)

1 単位時間で行う。授業の前半部分を一斉指導後、小テストなどの診断を行い、後半15分間でねらいに到達できたと思われる子供は発展学習や習熟に取り組む。一方で、不十分であると思われる子供は補充学習に取り組む。

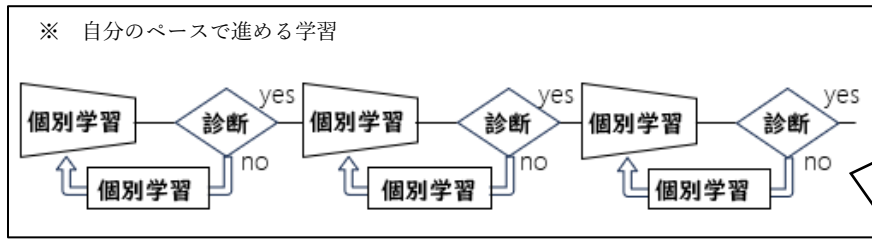
実践例 第1学年 国語科「どうぶつの赤ちゃん」

一斉指導で、教科書に出てくる動物の赤ちゃんを比べたら何が分かるか、考えさせた。終末では、9種類の動物の赤ちゃんの様子が書かれた資料を読んで問題に答えさせた。資料は授業支援ソフトで配信し、子供がまとめた動物を選択しやすくなるように工夫した。



【異なる動物の赤ちゃんを比較】 【配信されたくじらの赤ちゃんの資料を読む子供】

(3) 単元内自由進度学習



単元計画表を基に個別学習を行い、定着度を診断する。できたら次へ進み、できなかった場合は補充学習後、再度課題に取り組む。

図7 単元内自由進度学習の流れ（イメージ）

実践例 第3学年 算数科「2けたをかけるかけ算」

授業の流れ

授業前に「ミニレッスン」をすることもある。

教科書のQRコードを読み込んで解き方を見よう。

「Qubena」でチェック!

なんて間違ったのか、教えて。

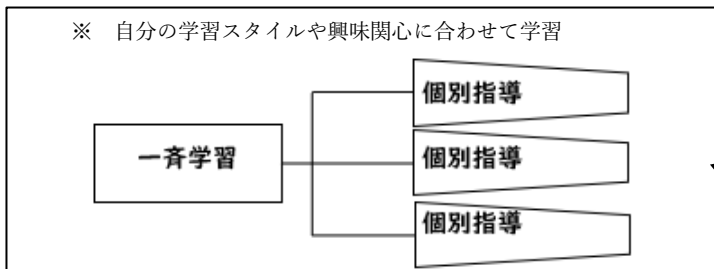
【掲示物】

種	めあて	単元計画表
1	九九の暗唱がスムーズにできるか確認する。	◎ ○ △
2	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ △
3	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ △
4	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ △
5	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ △
6	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △
7	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △
8	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △
9	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △
10	2桁×2桁のかけ算の筆算のやり方を理解できるか確認する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ △

【単元計画表】

【単元内自由進度学習の基本的な流れ】

(4) 課題選択学習



一斉指導後、同じ学習スタイルや興味関心ごとにグループをつくり、学習を進める。小単元、または単元ごとに行う。

図8 課題選択学習の流れ（イメージ）

実践例 第6学年 社会科「震災復興の願いを実現する政治」

第1時で「震災復興に向けた国の取り組み」や「震災復興に向けての市や市民の取り組み」等、4つの内容から1種類選択。教科書をベースに、授業支援ソフトにまとめ単元末に友達と発表し合う。ただ、このままだと学習に偏りが出てしまうため、A I型ドリルや自作問題等を活用し、毎時間の終末に知識技能を定着させる時間を確保した。

【単元の最後に行う発表会】

(5) 学習の進め方の教育課程への位置付け

教材研究をする際の参考として、年間指導計画に「単元内自由進度学習に向いている単元」「課題選択学習に向いている単元」を記載した。その際、単元構想を大切に、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

※ (課) 課題選択学習, (自) 単元内自由進度学習

月	単元	単元	単元
10月	方言と共通語(課)	2	2
	秋の夕	1	1 導入(オリエンテーション)
	よりよい学校生活のために	6	1 くらしを支える工業生産
	単元テスト③	1	2 自動車をつくる工業(課)
11月	浦島太郎	1	単元テスト②
	和語・漢語・外来語	2	1
	固有種が教えてくれること(自)	10	3 工業生産を支える輸送と貿易(課)
	硬筆「目指せ! 新聞記者」	4	4 これからの工業生産とわたしたち(課)
11月	カンジ博士の暗号解読	2	単元テスト③
		1	1

図9 教育課程「年間指導計画」

視点2 協働的な学びの充実

(1) 意図的な班構成

学習の内容や学級の実態に合わせて、複数の班構成の中から選択することで、より効果的に協働的な学びが促進されることが期待できる。それぞれの班構成を職員で共有し、活用しやすくなるようにした。

教師決定型グループ	
名称	長所
<ul style="list-style-type: none"> • 同学力(単元テストの結果)グループ • NRT分析を基にした学習ペースグループ • NRT分析を基にした学習適正グループ • 同思考グループ • 異思考グループ 	<ul style="list-style-type: none"> • 正答の程度など同じ立場の子供が話し合うことで、相互に深め合うことができる。 • 学習ペースの速い児童が、ゆっくりと進む児童に考えを伝えることができる。 • 言語優位班、非言語優位班にバランスタイプが混じる分かれ方。特性を生かした班活動が期待できる。 • 同じ考えを共有できるため、協働的な活動がより活性化する。 • 異なる考えを聞くため、見方・考え方が広がる。
児童任意型グループ	
名称	長所
自己決定グループ	安心感のある友達とグループをつくるため、分からないことでも恥ずかしがらずに質問することができる。

表3 班構成の種類とその長所

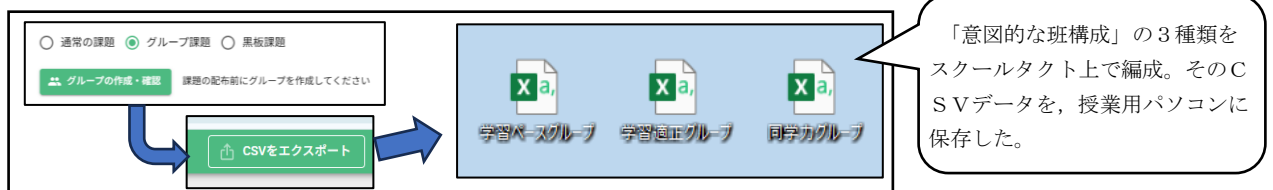


図10 スクールタクトでのグループ編成

(2) 学びの必然性を実感させる発問の工夫

子供は解決したい問題と出合ったとき、学びの必然性を実感する。学びの必然性を実感した子供は本気で考え、友達と協働して問題の解決に向かうものである。発問の工夫により、「学びの必然性」を創出することができると考え、表4にまとめた。

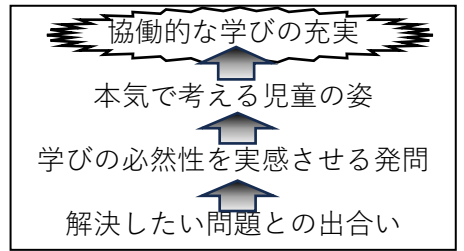


図11 協働的な学びの充実に向けたステップ

発問の種類	発問例	期待される効果
選択式発問	<ul style="list-style-type: none"> • ~は、AかBか。 • ~は、Aか、Bではないか。※ ノートに答えを書かせる 	<ul style="list-style-type: none"> • 2択なので気軽に答えられる。 • その後の授業展開への関心が高まる。
数を問う発問	<ul style="list-style-type: none"> • ~は、いくつあるか。 • ~は、何メートルか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 答えがぶれにくいので、比較をしやすい。
○□発問	<ul style="list-style-type: none"> • △△さんの考えに対して、自分も同じ考えだと思える人は○、自分と違う考えだと思える人は□をノートに書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達の発言を、注意深く聞くことができる。 • 自分の意見と比較できる。
限定する発問	<ul style="list-style-type: none"> • ~の仕事にはどのようなものがありますか。5つ以上考えましょう。 • 登場人物の心情を最もよく表している言葉を、○ページから1つだけ探しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 短絡的な考えから、一歩踏み込んで考えさせることができる。 • 限定することで、答えの難易度が上がる。
繰り返し発問	<ul style="list-style-type: none"> • ○○ってどういう意味かな。(表現の意味を問う) • ○○さんは、どうしてこう考えたと思いますか。(表現の根拠を問う) • ○○さんは、この後どんな考えを言おうとしているのかな。(子供の説明の続きを問う) • この計算は、いつでも使えますか。(思考をゆさぶる) 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の「ねらい」に迫る可能性がある意見に対して「繰り返し発問」を仕掛けることで、授業の本質に迫ることができる。 • 子供同士の学び合いに必要な「相手への問い」の手本を示すことになるので、自己調整力の高まりにも期待できる。

表4 発問の種類と発問例、期待される効果

(3) PA (プロジェクト・アドベンチャー) の取組による良好な関係づくり

毎週月曜日の朝の会でアクティビティを実施し、学級内で良好な人間関係づくりを目指す取組を行った。その際、気を付けることを以下の3点とした。

- ア 「勝敗」を目的とせず、「チャレンジ」「協力」「楽しむ」ことを目的とする。
- イ お互いの人権を最大限に尊重する。
- ウ 人からは何も強制されない。



視点3 学びを発展的に向上させるための自己調整力の育成

(1) 「授業の振り返り」を通じた自己調整力の育成

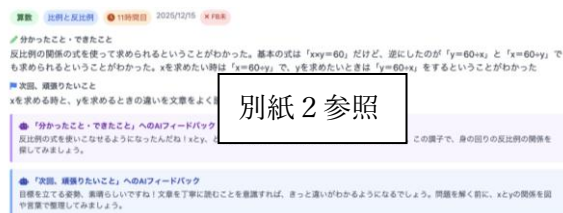
学びに向かう姿勢を絶やさず子供を育成するために、子供は学習活動を振り返り、次の学習に生かす必要がある。また、教師は次の授業デザインに生かすために形成的に評価する必要がある。そこで、以下の3点を振り返らせることとした。

- ア 何を学んだのか。
- イ 学び方はどうだったのか。
- ウ 次の学習では、どんなことを取り組みたいのか。

この3点の振り返りを繰り返すことで、他の学習でも自己を振り返る力が身に付くと考える。

実践例 第6学年 算数科「比例と反比例」

自作の振り返りアプリを使い「分かったこと・できたこと」、「次回、頑張りたいこと」を入力し、その結果をAIに分析させ、子供たちはAIからのフィードバックを受け取るようにした。適切な内容であればAIが褒めてくれるため、子供たちは試行錯誤しながら意欲的に入力をしていった。フィードバックは必ず教師が確認し、誤りや不適切な表現等がないか確認するようにした。



(2) 発達段階に応じた教師の関わる度合いの調整

自己調整力を育成するためには、「子供の学び方を育む」という視点が必要である。6年間のすべての期間で学び方を育む必要があるが、発達段階において教師の関わり方の度合いは変化すべきである。本校では、教師がしっかりとリードして学び方を育ませる「リード期」、子供の学びに並走する「サポート期」、後ろに控えて見守るイメージの「バックアップ期」と、低・中・高学年で関わり方の度合いを変えている。その中で状況に応じて個別に対応している。

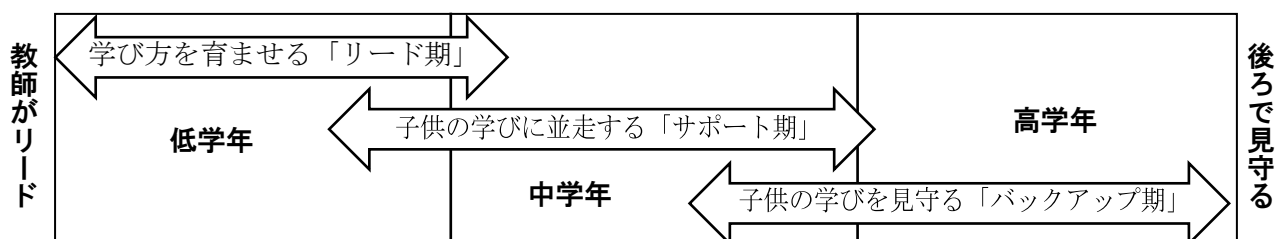


図12 教師による関わり方の度合い(イメージ)

(3) 語り出しの言葉を意識させた話すスキルの育成

相手に対して、より積極的に関わったり、聞く側が質問したくなるような発言をしたりする「スキル」を身に付けさせることで、子供たち自身での学びが充実し、発展的に向上していくと考えている。本校では表5の「語り出しの言葉」を定着させることで「協働的な学びによる深い学び」をより実感させ、自己調整力を高められると考えている。

発言の種類	語り出しの言葉	学年に応じた取り組み		
		低学年	中学年	高学年
発見	僕が、私が気付いたことは……	○	○	○
予想	たぶん(おそらく)……	○	○	○
疑問	なぜ、どのような……	○	○	○
考え	僕の、私の考えは……	○	○	○
反対	○○○という意見もいいと思いますが……		○	○
まとめ	つまり……			○

表5 語り出しの言葉の種類と学年に応じた取組

IV 研究の成果と課題

1 各調査結果から見られる児童の変容

(1) 鹿児島学力・学習状況調査結果より

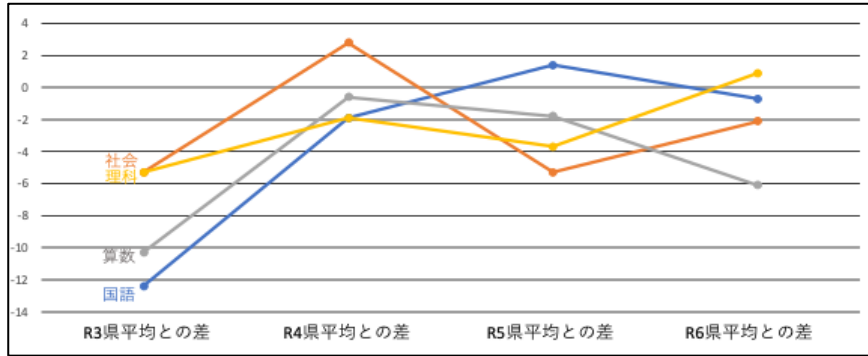


表 6 鹿児島学力・学習状況調査における県平均との差

(2) 全国学力・学習状況調査結果と現在の調査との比較

視点1「個別最適な学びの充実」に関する質問結果	<p>図13 分からないことやわくわく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできているか、質問した結果</p>
視点2「協働的な学びの充実」に関する質問結果	<p>図14 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか、質問した結果</p>
視点3「学びを発展的に向上させるための自己調整力の育成」に関する質問結果	<p>図15 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか、質問した結果</p>
視点3「学習の理解」に関する質問結果	<p>図16 算数の授業は分かるか、質問した結果</p>
	<p>図17 国語の授業は分かるか、質問した結果</p>
	<p>図18 理科の授業は分かるか、質問した結果</p>

2 研究の成果と課題

(1) 視点1「個別最適な学びの充実」

成果	ICTや教材を活用した単元内自由進度学習や課題選択学習により、個々の学力に応じた指導が進み、「IV 研究成果と課題」の「(2)全国学力・学習状況調査結果と現在の調査との比較」から「自ら学ぶ姿勢」「知識の定着」が向上したことが分かる。また、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、友達や先生に聞く、インターネットで調べるなど自己選択・自己決定することができる子供が増え、自分で学び方を工夫できる子供が増加した。	課題	大勢の学級で「視点1」に書かれているような「個別最適な学び」を推進するには低学年からの自立学習の育成が必要だが、指導法の確立には至っていない。さらに、自走が困難な児童への支援不足が要因で、どのように進めればよいか困っている子供が見受けられた。また、教材準備の負担軽減や、教育的ねらいに即したAIの検証、ICTと教師の専門性の融合が今後の課題となる。
----	---	----	--

(2) 視点2「協働的な学びの充実」

成果	対話的な学びやPAによる交流で多面的な視点と意欲を育み、目的別のグループ編成で安心できる環境を整えた。進捗に応じて「自力」や「ペア」など柔軟に集団を再編し、個々の状況に即したきめ細やかな支援が可能となった。その結果、学習に対して苦手意識をもっている子供が「最後までやりきろう」という姿勢で取り組む姿が多く見られだした。また、アンケート結果では「協力して課題解決に取り組めていない」と答える子供が減少した。	課題	効果的な学び合いには安心できる人間関係が基盤となるが、固定の友達関係を脱することが難しい子供が見受けられるなど、道半ばである。また、子供の話し合いが活発化した一方、話す内容を精選する力の育成が必要だと感じた。今後は交流を「有意義な語らい」に高める手立てを研究しなければならない。
----	--	----	---











(3) 視点3「学びを発展的に向上させるための自己調整力の育成」

成果	自己選択・自己決定により学習を「自分事」化し、意欲の持続とめあての明確化を実現した。振り返りを定着させることで学習サイクルを構築し、自律的な学び方を習得するようになった。その結果、「IV 研究成果と課題」の「(2)全国学力・学習状況調査結果と現在の調査との比較」のアンケートでは「自分の学習を振り返り、次の学びへつなげられない」と答える子供が減少した。また、つまづいてもどうにか解決しようとする子供の姿が多く見られた。	課題	自分で学び方を決める時間を確保しても、見通しをもつのが苦手で発想が浮かばず、困っている子供が一定数存在する。その子供への介入・伴走といった効果的な個別の支援方法を構築する必要がある。また、目に見えにくい「自己調整力」を客観的に捉え学習指導へと反映させていくことが、今後の指導体制における課題である。
----	---	----	---

【引用・参考文献】

- 蓑手章吾「自由進度学習のはじめかた」2021年 学陽書房
 難波駿「超具体！自由進度学習のはじめの1歩」2023年 東洋館出版
 佐々木潤「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」2022年 明治図書出版
 前田康裕「まんがで知るデジタルの学び～ICT教育のベースにあるもの～」2022年 さくら社
 加藤幸次「学校DXと『個に応じた学習』の展開」2024年 黎明書房
 田中博史「算数的表現力を育てる授業～子どもの思考過程が見えてくる～」2001年 東洋館出版
 白坂洋一・香月正登「リフレクション型国語科授業」2024年 東洋館出版
 白坂洋一「子どもの思考が動き出す国語授業4つの発問」2021年 東洋館出版
 藤原光正「明日の授業が変わる『発問』の技術」2022年 明治図書出版
 中野裕己「授業で育む国語の『学び方』子供と創る個別最適な学び」2025年 明治図書出版
 宗實直樹・椎井慎太郎「社会科『個別最適な学び』授業デザイン」2024年 明治図書出版
 藤原光政「最新教育動向2026必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120」2025年 明治図書出版

【別紙1】 P4「単元計画表」

算数「くふうして計算のしかたを考えよう」「ひっ算を使って計算しよう」			
時	めあて	理解度チェック (◎, ○, △)	
1	九九より大きいかけ算の答えは、どのようにもとめるか？	教科書P3~P5 	キュビナ→なし
		◎○△→	
2	何十,何百のかけ算も,九九を使って計算できる？	教科書P6~P7 ①①②③ ①② 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 2時間目
		◎○△→	◎○△→
3	23×3の計算も,これまでのかけ算を使って計算できる？	教科書P8~P9 ①①②③④⑤ 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 3時間目
		◎○△→	◎○△→
4	かけ算のひっ算は,どのようにすればよい？	教科書P10 ②①② 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 4時間目
		◎○△→	◎○△→
5	2けた×1けたの,くり上がりのあるひっ算は,どうすればよい？	教科書P11~12 ③①②③④①②③ 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 5時間目
		◎○△→	◎○△→
6	かけられる数が3けたの計算は,どのようにすればよい？	教科書P13 ①①②③ 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 6時間目
		◎○△→	◎○△→
7	かけられる数が3けたのひっ算は,どのようにすればよい？	教科書P14 ②①② 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 7時間目
		◎○△→	◎○△→
8	3けた×1けたの,くり上がりのあるひっ算は,どうすればよい？	教科書P15~16 ③①②③① 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 8時間目
		◎○△→	◎○△→
9	暗算をするには,どうすればよい？	教科書P16 ①①② 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 9時間目
		◎○△→	◎○△→
10	できるようになったこと	教科書P17 	↓キュビナ(ワークブック) ↓ ひっ算を使って計算しよう 10時間目
		◎○△→	◎○△→
↓ここからスペシャルかだい↓			
スペシャル		教科書P18まなびをいかそう 教科書P150「1けたをかけるかけ算」	学びボックス(テストにむけて)
		◎○△→	◎○△→

P6「実践例 第6学年 算数科『比例と反比例』」

算数 比例と反比例 11時間目 2025/12/15 ×FB未

分かったこと・できたこと

反比例の関係の式を使って求められるということがわかった。基本の式は「 $xy=60$ 」だけど、逆にしたのが「 $y=60÷x$ 」と「 $x=60÷y$ 」でも求められるということがわかった。xを求めたい時は「 $x=60÷y$ 」で、yを求めたいときは「 $y=60÷x$ 」をするということがわかった

次回、頑張りたいこと

xを求める時と、yを求めるときの違いを文章をよく読んでわかるようにする。

「分かったこと・できたこと」へのAIフィードバック

反比例の式を使いこなせるようになったんだね！xとy、どちらを求めるかで式を使い分けられるのは素晴らしい。この調子で、身の回りの反比例の関係を探してみよう。

「次回、頑張りたいこと」へのAIフィードバック

目標を立てる姿勢、素晴らしいですね！文章を丁寧に読むことを意識すれば、きっと違いがわかるようになるでしょう。問題を解く前に、xとyの関係を図や言葉で整理してみよう。